

出席停止期間について

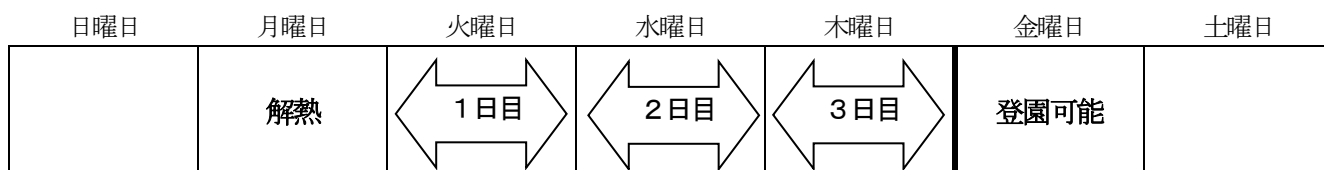
インフルエンザ

<参考：出席停止期間の算定について>

出席停止期間の算定では、解熱等の現象がみられた日は期間には算定せず、その翌日を1日目とします。

「解熱した後3日を経過するまで」の場合、例えば、解熱を確認した日が月曜日であった場合には、その日は期間には算定せず、火曜日（1日目）、水曜日（2日目）および木曜日（3日目）の3日間を休み、金曜日から登園可能ということになります。

図1 「出席停止期間：解熱した後3日を経過するまで」の考え方

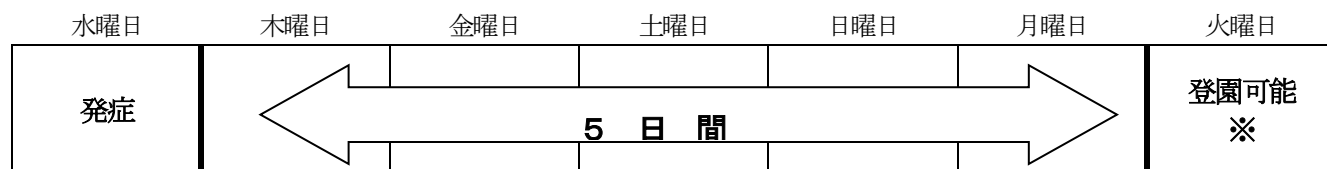


また、インフルエンザにおいて「発症した後5日」という時の「発症」とは、一般的には「発熱」のことを指します。日数の数え方は上記と同様に、発症した日（発熱が始まった日）は含まず、その翌日から1日目と数えます（図2）。

「発熱」がないにもかかわらずインフルエンザと診断された場合は、インフルエンザにみられるような何らかの症状がみられた日を「発症」した日と考慮して判断します。

なお、インフルエンザの出席停止期間の基準は、「発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後3日を経過するまで」であるため、この両方の条件を満たす必要があります。

図2 インフルエンザに関する出席停止期間の考え方



発熱等が出現

※ただし、解熱後3日を経過している必要があります。

新型コロナウイルス感染

発症した後5日を経過し、かつ、症状が軽快した後1日を経過するまで